

美博など16施設を紹介

東亜同文書院記念「東三河のミュージアム」発行

愛知大学東亜同文書院大学記念センター(藤田佳久センター長)友の会はこのほど、小冊子「東三河のミュージアム」を発行した。東三河の美術博物館、図書館、資料館、テーマ博物館など16施設を紹介、利用者の便宜とともに、各施設間の交流促進を図る。

便宜と交流促進図る

06年、文部科学省のオープン・リサーチ

センター整備事業に選定され、書院関係の展示施設や大学史展示室を整備して



リフレッシュした。

今回、東亜同文書院時代の貴重な体験などを記録し、多くの人に知ってもらいたい。ブックレットを刊行した。

同友の会連携施設は16館で、このほかの15施設(豊橋地下資源館「豊川市民俗資料館」「生命の海科学館」ほか)も紹介している。

発行された「東三河のミュージアム」を手にする藤田センター長(東海日日新聞社で)

り。

愛知大学東亜同文書院大学記念センター、豊橋市美術博物館、同自然史博物館、同三川宿本陣資料館、同中央図書館、豊川市桜ヶ丘ミュージアム、同中央図書館、御油の松並木資料館、小坂井町郷土資料館、蒲郡市博物館、田原市博物館、新城市設楽原歴史資料館、同長篠城址史跡保存館、鳳来寺山自然科学博物館、新城まちなか博物館、花祭会館

上、愛知大学内の同記念センターまで申し込む。電話0532(47)4139。

本社来訪

愛知大学東亜同文書院大学記念センター長・藤田佳久氏、同リサーチ・アシスタント・高木秀和氏、愛知大学豊橋研究支援課主幹・山本晃司氏、炉ばた料理一期一会店主・神山政幸氏、佐原経営支援パートナー代表・佐原啓泰氏、サミソチカラコレクション看板と広告の資料館・船坂清伸氏、

東 愛 知 新 聞

2009年(平成21年)4月12日(日曜日)

「東三河のミュージアム」出版

愛大東亜同文書院
大学記念センター

博物館や資料館紹介

愛知大学東亜同文書院大学記念センター(藤田佳久センター長)はこのほど、東三河の博物館や資料館などを紹介する小冊子「東三河のミュージアム」(A5判、30頁)を、同書院ブックレットの別冊として出版した。

東三河の主要な博物館や資料館と連携して東三河の文化を発信しようとする「友の会」を設立。会に加入している施設を中心に31カ所を紹介する。

同センター展示室をはじめ、豊橋市美術博物館、豊橋市二川宿本陣資料館、蒲郡市博物館、新城市長篠城址史跡保存館などの設立経緯や展示内容、交通アクセス、開館日などを掲載する。

藤田センター長は「東三河の歴史を知るのに、資料館巡りはうってつけ。この本を手にとり、さまざまな資料館に出掛けてほしい」と話していた。



「東三河のミュージアム」を手にする藤田センター長(左)ら＝東愛知新聞社で

1000部作成し希望者には無料で配布する。問い合わせは同センター(0532・474139)へ。(竹下貴信)

愛大への思い入れ熱く

東亜同文書院 平田超人氏語る



愛大の歴史を熱く語る平田氏

愛知大学東亜同文書院記念センターは、25日午後2時から同センター講義室で「学外者から見た愛知大学」のテーマで講演会を開いた。東海日日新聞に連載し

た「東亜同文書院と愛知大学」の著者・平田超人氏が、愛大への思い入れを学外者の立場から熱く語った。

講演に先立って同センターの越知専客員研究員が、講師紹介を行い、「10年ほど前、豊橋市美術館で物館で卒業生の写真家・東松照明氏の写真展の際に、平田さんは東海日日新聞顧問として写真展特集を組んでくれた」とお礼を述べた。

平田氏は、豊川市在住。文芸雑誌「果樹園」同人。東大経済学部卒。時習館高校(旧制豊橋中学)に入学した当時、愛大が開学したこともあり、あこがれを持ったのが、本紙連載になった。

講演は、約2時間

にわたり、昭和20年の「無条件降伏」という歴史上初めての出来事で突然、廃校になった大学(東亜同文書院)と学生の運命やその後、中部地区初の文科系大学として、開学した愛大の動きを歴史的に検証した。

敗戦では、中国など外地にあった大学の引き揚げ学徒は、国のすばい対応で同年8月28日の閣議で東大、京大などの無条件受け入れが決まった。

しかし、敗戦の混乱から学籍簿、成績簿などを失い、復学できなかった学生も多かった。平田氏は、愛大創設のひとりである愛大最後の学長・本間喜一氏について「中国に残り、学籍簿、成績簿を守って持ち帰った」と愛大創設につながったいきさつを話した。

昭和27年5月の愛大事件では、「赤の大学」と風評が立ち、豊橋財界の支援が断たれ、存続が危ぶまれたことがあった。

平田氏は「壺屋弁当部は、寄付の約束を守った。これに対し、本間氏は東京へ行くたびに列車の中で大声で聞こえるように『これはうまい稲荷ずしだ』と食べた」と紹介、その人柄にふれた。

愛大事件では、警察官が学内に立ち入ることを認めず、容疑をかけられた学生を身体を張って守った。「親が子どもを警察に突き出すことはない。本間氏の学生を思う気持ちと大学の自治を守った行動は、称賛すべき」と大学史に残る事件のときに何が起きたのかなどを詳しく語った。

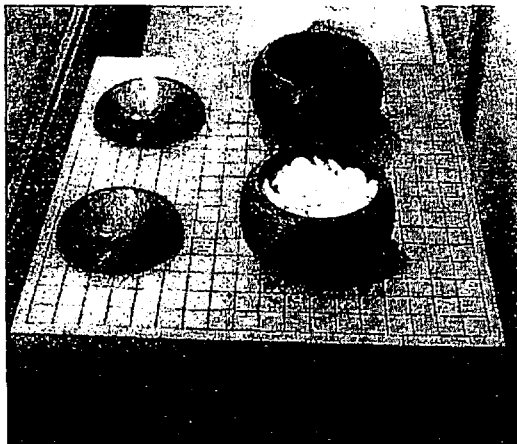
愛大東亜同文書院
大学記念センター

本間氏愛用の碁盤展示

意味深な近衛氏の書も

愛知大学東亜同文書院大学記念センターにこのほど、本間喜一・元愛知大学長が愛用していた碁盤や、愛大の前身である書院大の創設にかかわった近衛篤磨氏の書が展示された。また収蔵されている蔵居文庫の整理費として110万円の寄付があった。

(竹下貞信)



碁盤は、本間氏が昭和30年代に社長を務めていた東京の不動産会社「建財」の退職金の一部としてもらったもの。厚みが20センチほど重厚感がある。お金を渡すとともに愛知大学のために使っ

本間氏が愛用していた碁盤は愛知大学東亜同文書院大学記念センターで

てしまったため、残るものを碁盤になったという。

ちなみに本間氏の次の建財社長は、オリエンタルランドの2代社長の高橋政知氏。本間氏と東京ディズニーランドとの意外なつながりも確認された。

近衛氏の書は、山本達雄・元日銀総裁に贈られたもので、同大にゆかりのある関係者から寄贈された。

「蔵居文庫の整理費に」

蔵居淳さんが110万円寄贈

蔵居文庫は、書院大の卒業生の故・蔵居中心にした書籍3000

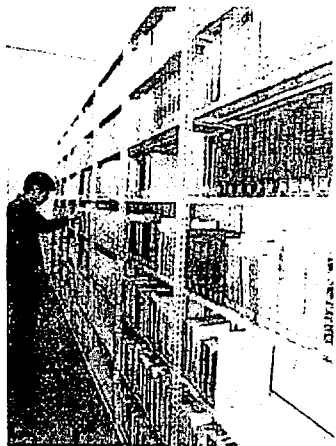
近衛氏の書と同

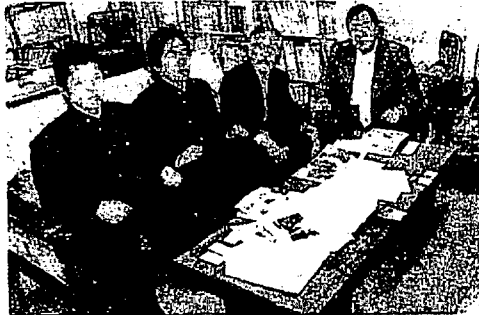


「川や湖を渡れば大波、山を登れば足下の道が危うい」と、どこへ向かっても危険があるの意味の漢詩が書かれた書。「投資の失敗で巨額の損失を出した現在の大学の厳しさを表している」と寄贈されたという。

蔵居さんのおいの淳さんから、整理費用に充てて欲しいと110万円寄贈があり、同センターでは本の修理費などに充てることにしている。

蔵書がずらりと並ぶ蔵居文庫





愛大応援団が新城でエール

(右から)和田教育長、越知特別顧問、宮永悠介団長、浅田穰副団長

別荘間など応援団関係者が新城市役所に和田守功教育長を訪問し、新城での開催をね、新城での開催を申請した。和田教育長も「応援団の所作を真摯に子どもたちが礼儀作法を身に付けたい」と歓迎した。派遣を希望する中学校を募集するなどの協力を約束した。「文武両道の姿を育ててほしい、地域を元気づけたい」と越知さん。大学生の迫力を賞賛は中学生にもいい刺激になるに違いない。



TONICHI WEEKLY DIGEST



愛大応援団が迫力の演舞

大学の歴史も紹介 新城千郷中を訪問



中学生を前に迫力の演武を披露する 応援団員たち。新城千郷中にて。

愛知大学の応援団が2日、新城千郷中学校を訪れ、3年生132人に大学の歴史を紹介したほか、迫力の演武を披露した。

同大東亜同文書院大学記念センター(豊橋市町畑町)が、東三河の中学生を対象に始めた出前授業で、新城市では初めて。

来校したのは、センターの越知専(まこと)客員研究員(78)はじめ団員5人で、越知氏が中国・上海から始まった。

16日には、鳳来中学校でも行われる予定。(杉森秀房)

【特別】

センターの越知専(まこと)客員研究員(78)が訪れ、3年生132人に大学の歴史などを説明する出前授業をした。越知研究員

2009年(平成21年)7月3日(金曜日)

21

「本物の迫力」生徒圧倒

千郷中 愛大応援団が演舞披露

新城



応援団員から演舞の指導を受ける中学生(千郷中学校で)

は大学の前身が戦時中まで中国・上海にあったことなどを紹介し、その精神として「文武両道」教育は「愛なり」として強調。応援団員にとり演武も、礼儀の大切さを伝えた。出前授業はO.B.を講師に、今後各地で行

愛知大学応援団の団員らが2日、新城千郷中学校を訪れ、3年生を前に演舞を披露した。同校の進路学習の一環。同大応援団が新城の学校で演舞を行うのは今回が初めて。

初めに応援団後援会の越知専さんが「応援団を通じて、文武両道を重んじる愛大の精神を学び取ってほしい」とあいさつ。

団員らは全部で3曲を演じた。本格的なエールの迫力に、生徒たちは圧倒された様子だった。

また演舞体験もあり、希望した生徒は直接、指導を受け、その後で早速練習の成果を披露。にわか作りの中学生の応援団も、大学生に負けじと声を張り上げていた。

本

◇同文書院記念報

VOL17
愛知大学東亜同文書院大学記念セン
ター／編集・発行

愛知大学の淵源となつた東亜同文書院大学の歴史を探り、資料を残す活動を続

ける愛知大学東亜同文書院大学記念セン
ター（藤田佳久セン
ター長）は08年7
月、弘前駅前市民ホ
ールで「津軽が生ん
だ山田良政・純三郎
兄弟をめぐって」津
軽、東亜同文書院、
孫文、同11月、ア
クロス福岡で「東亜
同文書院大学の資料
展示会―日中友好の
原点を探る」展示会

同文書院
記念報VOL17

私の愛知同文書院大学時代 藤田 佳久
目白にあった東亜同文書院 藤田 佳久
第15回東亜同文書院記念基金金庫開式 藤田 佳久
記念センター所蔵資料目録 藤田 佳久
2008年度記念センター活動記録

を開いた。
記念報VOL17で

は08年6月に開かれ
た倉田俊介氏（東亜

文書院）の公開講演
会の様子を収録して

文書院）の公開講演
会に就任、昭和

に就任、昭和
成、護立自白中学校

は、7月25日公開講
演会「東亜同文書院

同文書院大
学42期生）
の一人の東
亜同文書院
大学時代、
同10月、保
坂治朗氏
（元中央大
学付属高校
教員）の
「目白にあ
った東京同
文書院」の
公開講演
会に就任、
昭和16年
上海にあつた東亜同
文書院大学に愛知同
文書院として入学、同
18年、学徒出陣して
湘桂作戦、長沙戦に
参加、戦後は日商産
業（現・日商岩井）
に就職、ジャカルタ
に赴任、昭和
51年には逓友会幹事
に就任した。
保坂治朗氏は、目
白にあつた東亜同文
書院大学の前身の東
京同文書院、さらに
その前身の目白中学
（明治42年設立）の
校史と藤納治五郎、
柏原文太郎、河合塾
を始めた河合逸治
（豊橋出身）、細川護
成、護立自白中学校
長、金田一京助、清
水七太郎ほかの教師
陣を通じて目白中
学、東京同文書院の
歴史を探っている。
ほかに平成20年
度、第15回東亜同文
書院記念基金賞を受
賞した工藤美代子著
「われ果敢に出頭せ
ず 近衛文麿と天皇」
授賞式の模様を報告
している。

同記念センターで
は、7月25日公開講
演会「東亜同文書院
大学の教育、とくに
中国語教育につい
て」（講師・宮田一
郎東亜同文書院大学
41期生、復旦大学、
蘇州大学顧問教授）
を愛知大学豊橋校舎
本館5階会議室で開
いた。

社会

東日新聞 2009年(平成21年) 7月14日(火)

14

生徒に礼儀・奉仕の精神を

愛知大学応援団はこのほど、新城市内の中学生たちと交流する取り組みを始めた。63年前、大学設立の際に、同市に住んでいた実業家から多額の寄付を受けたことに対する「恩返し」の意味が込められている。

愛大恩返し

新城に応援団がやってきた

応援団の設立は1954(昭和29)年。現在の富永悠介団長が58代目で、中部地区の大学応援団の中でも屈指の長い歴史を持つ。名古屋の熱田神宮での演舞を唯一許されている名門だ。

応援団OBらでつくる「後援会」の特

別顧問を務める越知専さん(78)は昨年、大学の古い書類の中に、愛大と新城との深いつながりを示す文書を見つけた。その中には46(同21)年の大学設置認可申請に際して、当時新城在住の実業家・富田実平氏が、必要な資金の実に3分の1

「地域の人たちの応援で作られた大学として、新城にも『恩返し』が出来ないものか。越知さんはあれこれ考えたあげく、新城の中学校に応援団を派遣することを思いついた。

応援団は10年ほど前から、東三河各地の中学校などから要請がある度に、生徒

に当たる30万円を寄付した旨が記載されていた。

63年前、大学設立時に多額の寄付

「応援」が結ぶ縁



市内中学校行事に派遣

たちの前でエールを導いたりする活動を披露したり演舞を指 始めた。これまでに

延べ約60校を訪問。しかし、新城を含めた奥三河の中学校でこの催しを行ったことはなかった。

6月4日、越知さんは富永団長らとともに新城市役所を訪れ、和守功教育長に協力を要請。和田教育長も「生徒たちには応援団の姿を見て、礼儀作法や奉仕の精神を学んでほしい」と乗り気で、すぐに市内中学校の学校行事への組み入れを手配した。

(右から)和田教育長、越知さん、応援団長、副団長。新城市役所での会見の様子

人間関係の基本「礼」学んだ生徒

こうして7月2日、新城で初めての学校訪問が、同市杉山の千郷中学校で実現。富永団長を含めた団員5人が、3年生約130人を前に演舞を披露した。

後半、団員が直接手ほどきをする「演舞体験」の希望者を募ると、即座に20人以上が進み出た。緊張気味だった雰囲気と、緊が和み出したのはこの辺りから。指導が

愛大恩返し

新城に応援団がやってきた

「どこからあんな大きな声が出るんだろ」「こんな応援をされたら、絶対試合に勝てそうなお気がする」。応援団の迫力に中学生たちは息をのんだ。

「彼女はいますか」「彼女はいますか」などという質問も飛び出し、会場は笑いに包まれた。

「応援とは自分を磨くこと」「応援したい人とされたい人をつなぐのが応援団。2つが重なったときが一番うれしい」。団員の実感のこもった言葉に、みな真剣に耳を傾ける。中学生と団員による合同演舞も大盛り上がり。最後に富永団長が「つらいことがあったら、今日のエールを思い出し

つらい時「エール思い出して」

圧倒的本物の迫力



和の精神 // 後輩へつなぐ

てほしい」と呼びかけた。生徒たちの反応は、会は無事終了。

「かっこよくて鳥肌が立った」「あいさつや礼儀が人間関係の基本だと思った。私も見習いたい」など大きく影響を受けた様子。越知さんは「応援団を通じて、礼を重んじる愛大の『和の精神』を知ってもらえた」と確かな手心えを感じている。

今回の学校訪問は、16日同市長篠の鳳来中学校を予定。部活動の壮行会に参加し、応援指導をする。

団員と中学生たちの「即席応援団」による合同演舞

模擬演説を披露する応援団長(撮影・尾玉)



パネルを使って本間イズム「教育は愛なり」を講話する越知さん(撮影・尾玉)

「教育は愛なり」の本間イズム伝える

2000(平成12)年春、「日本列島の初代総長は、当時50年」が、静岡県東海大学本間啓一芸術博物館で開かれた。その時、東松氏から「今の愛知大写真部の活動はどんな風会ですか」と問われた。東松氏が在学中の昭和27年には、中部学生連盟が結成され、彼が初代議長になった。

2000(平成12)年、た写真部も人数はともかく同好会的な動きはなかった。そんな状態から脱却したいと当時の光部学生連盟の取り計らいでテコ入れをするようになった。

2001(平成13)年、東松昭明氏(昭和29年卒)・八木祥光氏(同39年卒)・山本宏寿氏(同40年卒)・新井隆(同41年卒)を補強役として、写真や印刷の専攻を

撮ることも道例にならな。このようにして、応援団も随分となりました。7月16日は、県立中郷中学校生徒30人を対象に「本間イズム」の講話と、

7月2日には、新中郷中学校校長から愛知大学佐藤元彦学長への「進路指導」への派遣依頼。7月16日は、県立中郷中学校生徒30人を対象に「本間イズム」の講話と、

7月2日には、新中郷中学校校長から愛知大学佐藤元彦学長への「進路指導」への派遣依頼。7月16日は、県立中郷中学校生徒30人を対象に「本間イズム」の講話と、

結束固い愛知大学応援団と写真部

一体となつて部活



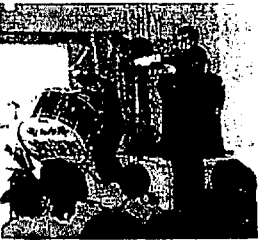
愛大応援団の精神を説明する団員



にわか応援団募集に応じ即刻練習する千郷中学校生徒



応援団員の指導で練習する千郷中学校生



迫力いっぱいの応援団演舞(鳳来中学校で)



気迫が伝わる陣身の演舞



先生も一緒に応援で激励(鳳来中の壮行会で)

欧米研究者から 見た東亜同文書院

あす愛大で国際シンポジウム

愛知大学東亜同文書院記念センター(藤田佳久センター長)は10日午後1時から愛知大学豊橋校舎記念会館で、国際シンポジウム「欧米研究者から見た東亜同文書院」を開く。同センターがプロシエクトとして進める、東亜同文書院をめぐる国際シンポ。一昨年の日中研究者によるシンポに続き、今回は欧米研究者の発表による、新たな視点からのアプローチ。

発表者とテーマは、①ダグラス・R・レイノルズ氏(ジョージア州立大学)「明治のもう一つの革新的パイオニアとしての東亜同文書院」②マリアヌ・バステド・ブルガー氏(フランス学士院)「20世紀前半期のヨーロッパ人の東亜同文書院に対する知識と視点」③ニキ・ケンジ氏(ミシガン大学)「ミシガン大学における東亜同文書院およびアジア系文献史料のデジタル化とその利用」④武井義和氏(愛知大学東亜同文書院センター)「第2次大戦後の欧米における東亜同文書院」。

コメント/栗田尚弥氏(国学院大学)。

聴講無料。
問い合わせは同センター(0532・47・4139)へ。
(杉浦文夫)

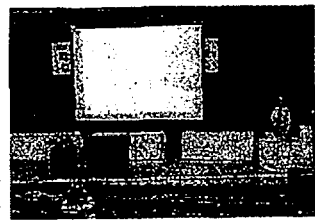
東愛知新聞 2009年10月9日(金)

愛知大学東亜同文書院大学 国際シンポジウム

とき:10月10日(土)午後1時~5時 ところ:愛知大学豊橋校舎記念会館(町畑町) 内容/講師:「欧米研究者から見た東亜同文書院」①明治のもう一つの革新的パイオニアとしての東亜同文書院/ダグラス・R・レイノルズさん(ジョージア州立大学)②20世紀前半期のヨーロッパ人の東亜同文書院に対する知識と視点/マリアヌ・バステド・ブルガーさん(フランス学士院)③ミシガン大学における東亜同文書院およびアジア系文献史料のデジタル化とその利用/ニキ・ケンジさん(ミシガン大学)④第2次大戦後の欧米における東亜同文書院研究/武井義和さん(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)⑤コメント/栗田尚弥さん(国学院大学) 定員:150人(先着順) 参加料:無料 その他:英語・日本語の同時通訳あり。当日は隣接する「愛知大学記念館」の中の「東亜同文書院大学記念センター展示室」を午前10時から公開します 問合せ先:愛知大学東亜同文書院大学記念センター(☎47・4139)、社会教育課(☎51・2849)

東亜同文書院を
欧米から見ると
愛大でシンポ
愛知大の国際シンポ
ジウム「欧米研究者か
ら見た東亜同文書院」

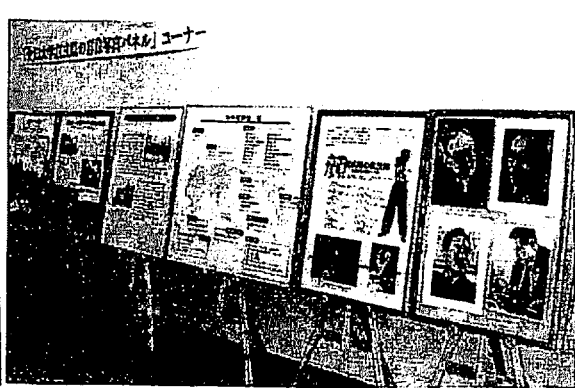
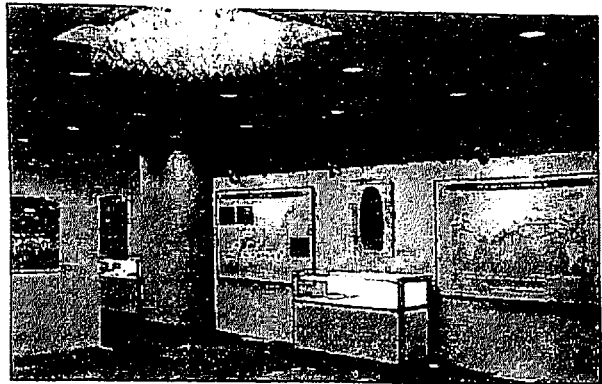
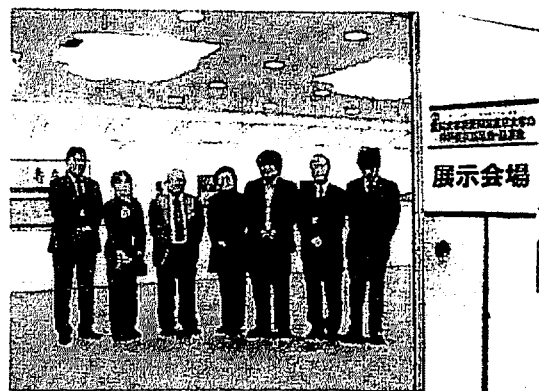
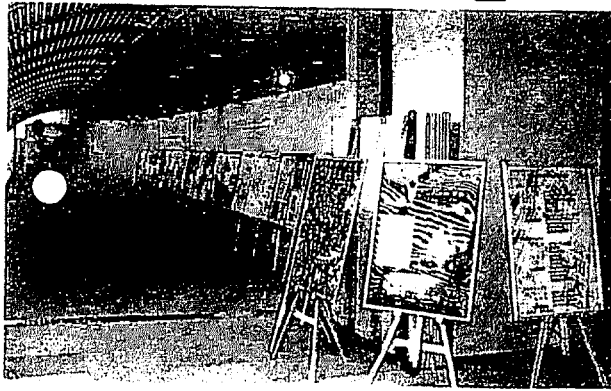
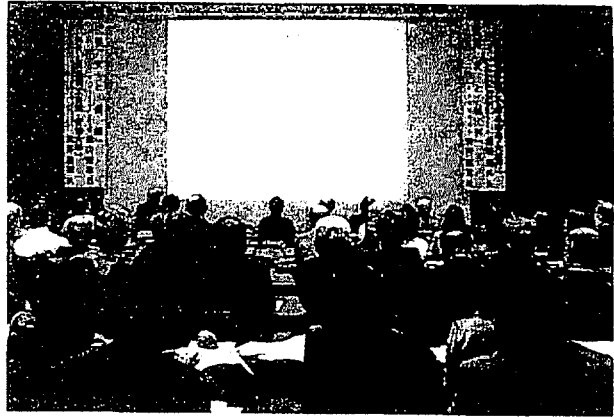
(中日新聞社後援)が十日、豊橋市の同大豊橋校舎で開かれ、約八十人が参加した。写真。同大の前身で戦前の中国・上海にあった東亜同文書院について研



究する国内外の五人が登壇。同書院が明治期に果たした役割や欧米人に影響を与えていた側面の研究などについて発表した。

広報とよはし 2009年9月15日

中日新聞 2009年10月11日(日)



当記念センターは、これまで各地で東亜同文書院のあゆみとそれにかかわる講演会を行ってきたが、今回神戸で実施するにあたり、当記念センターにも孫文関係のコレクションがあるため、孫文と関わり深い神戸や長崎における孫文の果たした足跡と役割も浮かび上がらせ、今日の視点から再評価してみたい。

展示期間 2009年11月2日(月)～4日(水)

場所 神戸国際会議場 3階レセプションホール

時間 10:00～18:00

講演会 2009年11月3日(火)

会場 神戸国際会議場 3階国際会議室

時間 13:00～17:00 **定員** 240名

① 豊田恒久 氏 (2017年5月神戸大学で講演) 特別講演
「東亜同文書院とそのあゆみ 大旅行」

② 井上吉司 氏 孫文記念館館長
「孫文と神戸」

③ 藤山忠孝 氏 北九州市立大学元学長
「孫文と長崎」

④ 沢井義和 氏 愛知同文書院大学記念センター長
「孫文と東亜同文書院(愛知大学)」




主催/愛知大学東亜同文書院大学記念センター/オープン・リサーチ・センター
後援/兵庫県教育委員会/神戸市教育委員会/(財)孫中山記念会/読売新聞大阪本社/
(財)藤山会/愛知大学同窓会

愛知大学
AICHI UNIVERSITY
http://www.alchi-u.ac.jp/

東亜同文書院大学 (上海1901～1945) から **愛知大学** (1946～現在) へ

読売新聞 大阪本社 2009年10月28日(水)

東亜同文書院大学の神戸資料展示会・講演会

孫文 —神戸、長崎そして—
東亜同文書院・愛知大学—

2009年11月3日(火) **無料**
13:00～17:00

会場：神戸国際会議場 3階 国際会議室

1. 「東亜同文書院とそのあゆみ 大旅行」
2. 「孫文と神戸」 3. 「孫文と長崎」
4. 「孫文と東亜同文書院・愛知大学」

— 展示会 —
2009年11月2日(月)～4日(水) 10:00～18:00
神戸国際会議場 3階 レセプションホール

愛知大学
東亜同文書院大学記念センター
☎0532-47-4139

神戸新聞 2009年10月29日(木)

愛知大の前身・東亜同文書院大

孫文関係の資料展

神戸 戸 2 日から
神来 月 日



愛知大学
(豊橋市)
は、同大学
の前身で、
海外高等教

育機関として中国・上海に
設立された東亜同文書院大
学の資料展（読売新聞大阪
本社など後援）を、11月2
日から4日まで、神戸市中
央区の神戸国際会議場で開
催する。



上旬にあった東亜同文書院のキャンパス

は、山田兄弟の
遺族から寄贈を
受けるなどした
数多くの孫文関
係資料が所蔵さ
れている。
会期中の3日
午後1時から、
同じ会場で講演
会も開催され
る。この中で地
元・神戸の安井
三吉・孫文記念

生の純三郎の兄弟は孫文を
支援し、特に純三郎は孫文
の秘書として1925年に
文書院大学記念センターに
北京で亡くなる時まで付き
添った。愛知大学の東亜同

館長が「孫文と神戸」と題
して孫文が神戸に残した足
跡を取り上げ、記念センタ
ーの武井隆和研究員が「孫
文と東亜同文書院・愛知大
学」で、孫文と同文書院と
のかかわりを語る。参加自
由、入場無料。

読売新聞 愛知版 2009年10月29日(木)

東亜同文書院 神戸 資料展が開幕

1901年に中国・上海
で設立され、日中で活躍す
る人材を輩出した東亜同文
書院の歩みを紹介する資料
展（愛知大学東亜同文書院
大学記念センターなど主
催、読売新聞大阪本社など
後援）が2日、神戸市中央
区の神戸国際会議場で始ま
った。4日まで。入場無料。

東亜同文書院は日本初の
海外高等教育機関で中国研
究の先進施設。辛亥革命を
指導し、神戸にゆかりがあ
る孫文の資料も多数保管し
ていた。終戦で閉校したが、
戦後、日本に引き揚げた当
時の教職員らが愛知大（愛
知豊橋市）を設立した。
資料展では、孫文記念館
（神戸市垂水区）の提供資
料を含め、当時の貴重な写
真や孫文直筆の書など約
100点を展示。3日午後
1時からは孫文と東亜同文
書院に関する記念講演会も
ある。

神戸市灘区の無職男性
（62）は「緻密な中国研究に
驚いた。歴史を知ると現代
がよく見える」と話した。

読売新聞 神戸版 2009年11月3日(火)

本間名譽学長の長女・殿岡晟子さん 愛大へ手紙など寄贈



懇談する佐藤学長と殿岡晟子さん(愛知大学で)

本間喜一・愛知大
学名誉学長の長女・
殿岡晟子さんが17
日、愛知大学を訪れ、
以前のおいの手紙な
ど約50点を寄贈した。

これは、本間名譽学長の旧姓・小池喜一時代で、小学校から東京府立第四中学校、東京商科大学のノートや資料など。特に昭和21年9月20日付のおいの信哉氏(実家)にあてた手紙は、愛知大学設立以前の大変貴重なものといえる。

内容は、なぜ、豊橋に愛知大学をつくらうとしたか、とりあえず法経学部をつくり、将来は農学部、水産学部をつくらうと、総合大学にするなどの夢のほか、食糧難で体重が15キロも減った事などが記され、最後として「今度の大学設立のごとき、もし成功すれば、金のおかげにあらず、小生50年の赤貧に甘んじ、正義の道を進んできた跡を認められた結果と存じます。目先の小さな利益ばかり追いかける者の到底成し遂げえる所にこれなき候」と真情を吐露している。

同日は、佐藤学長のほか、東亜同文書院センター長の藤田佳久氏、今泉潤太郎、大島隆雄両名誉教授も同席し、晟子さんから大学設立当時の苦労話などを聞いた。



⑨ 11月20日(金) 2009年(平成21年) 第3種郵便物認可 東日新聞

本

本間イズムと愛知大学—その真髓を美話から学ぶ—
—実例編—
越知 専著
—同資料編—
企画・越知 専
編集・平田超人
東亜同文書院は1901(明治34)年、上海に近衛篤磨侯爵院長を会長とする東亜同文会が経営母体となって開校した。

東亜同文書院は日中間で貿易もままならなかった時代、20世紀に向け、中国の言葉や経済に通じた優れた人材を養成するために設立され、1939(昭和14)年、大学令により東亜同文書院大学に昇格した。
敗戦で閉学するまでの45年間で約5000人の卒業生を送り出した東亜同文書院大学は昭和19年、学長となった本間喜一を最後に翌年、その幕を閉じた。
昭和21年3月、本間学長以下教職員、学生200余人は博多に引き揚げ、新しい大学の候補地を探していた本間は豊橋にある旧陸軍の師団長官舎や予備士官学校跡地に普目、横田忍豊橋市長らの援助と寄付を基に同年11月15日に新生愛知大学として発足した。



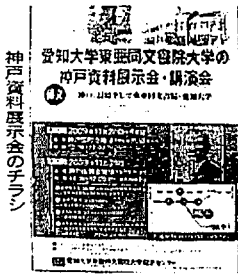
初代学長に前慶応義塾大学総長の林毅陸を迎え、昭和25年には第2代学長になった。
昭和27年の愛知大学事件では学生の弁護を買って出た本間氏は同38年の薬師岳遭

難(学生13人が死)の時には「大学は家庭と同じだ。自分の三親等以内の子供たちが遭難したと同じだ」と言って学長を辞職した。
中国の古典「中庸」に出てくる「中和致(ちゅうわいたす)を座右の銘とした本間の精神を、愛大OBの著者・越知専は「本間イズム」と呼んで、教育者本間の姿勢を検証している。「本間イズムと愛知大学」(資料編)企画・越知専、編集・平田超人は愛知大学東亜同文書院大学記念センター(藤田佳久記念センター)長)発行。

「致中和 本間喜一」
中和を致して天地位し、

万事育す

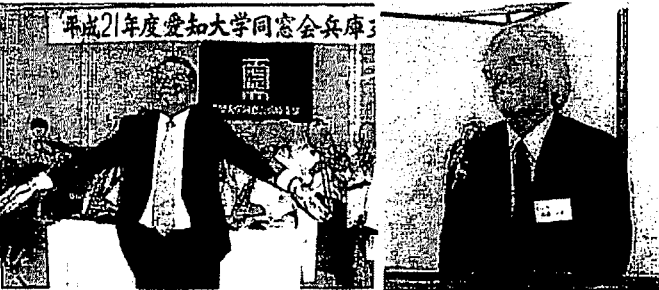




神戸資料展示会(予定)

シルバー・ソニック・オーケストラをバックに、進退歌をリードし、「傲」を飛ばした応援団OB会長加藤高憲氏

「全国レベルの愛知大学」を目指そうという佐藤元彦学長のあいさつ(神戸にて)



本間イズム伝えるイベント

羽ばたく愛知大学

10月26日、山形県米沢市の隣町、川西町玉塚の豪邸一先生の生家。本間先生の長女綾子さんと、私のお母さんとお訪ねした。

約180年前の文政時代に建てられた、その邸の豪華な装飾が、旧姓小池邸の面影がたゞ、二つの資料がたゞ、

創立の苦悩語る資料 本間喜一氏の生家訪ねる

10月26日、山形県米沢市の隣町、川西町玉塚の豪邸一先生の生家。本間先生の長女綾子さんと、私のお母さんとお訪ねした。

約180年前の文政時代に建てられた、その邸の豪華な装飾が、旧姓小池邸の面影がたゞ、二つの資料がたゞ、

本間イズムの研究、見である、愛知大学設立前の資料を手に、愛知大学創立に、ついでに苦労がたゞ、

本間イズムの研究、見である、愛知大学設立前の資料を手に、愛知大学創立に、ついでに苦労がたゞ、



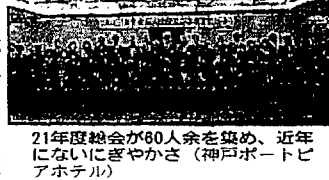
第58代副会長永修介愛知大学応援団長とし精いっぱい演技を(愛知大学記念館リーダー公開にて)



来訪者に「応援団の演舞の型」を説明する58代副会長



応援団演舞の写真や活動状況のパネルは越知専写研名譽会員の撮影によるものを展示した



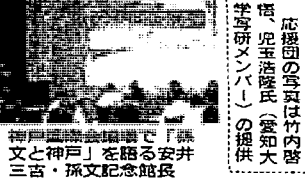
21年度総会が80人余を盛り、近年にないにぎやかさ(神戸ポートピアホテル)



「シルバー」というが、さすがジャズの本場神戸のミュージシャン



愛知大学収蔵の孫文や同文書院関係資料などが展示された



神戸臨海会館で「孫文と神戸」を語る安井三吉・孫文記念館長

愛知大学同窓会・まちはたクラブ
(本間イズムを啓蒙する会)
代表 越知 専
愛知市小松町13番地
名古屋・東区代表 加藤文典
(同窓会名古屋支部事務局長)
岡崎・西三河代表 藤田健士
(同窓会岡崎支部顧問)

AICHI UNIVERSITY
愛知大学東亜同文書院大学記念センター
Open Research Center for Toa Dobunshoin University of AICHI UNIVERSITY 愛知大学東亜同文書院大学記念中心
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 Tel.0532-47-4139 Fax.0532-47-4196 URL http://www.aichi-u.ac.jp/
1-1 Macluhata, Toyohashi, Aichi 441-8522, Japan

(前掲) 11月24日(月) 11月25日(火)

2008年(平成21年)11月25日(火曜日)

(12)

愛犬“本間イズム”の原点を発見



今年9月、本間氏の生家を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。

故・本間 賢一 氏
の愛犬

山形の生家に書簡 設立にかける強い決意をつづる

設立にかける強い決意をつづる

「本間イズム」は、山形県山形市で生まれた。その原点を発見し、その歴史を明らかにする。本間氏の生家を訪れ、その歴史を明らかにする。本間氏の生家を訪れ、その歴史を明らかにする。本間氏の生家を訪れ、その歴史を明らかにする。



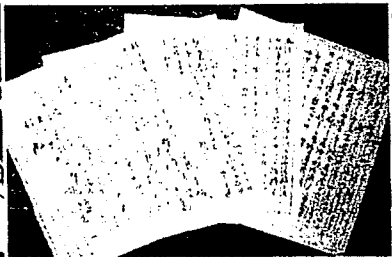
今年7月、愛犬の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



大学内の本間氏の研究室に「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



父・本間氏の手紙を手にする山間さん



山間さんが読んでいる「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



「ここで生まれたんだ」と、山間さんにもお礼を言っている



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



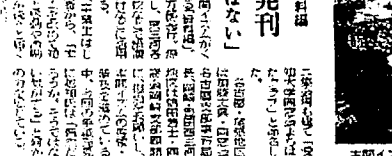
山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



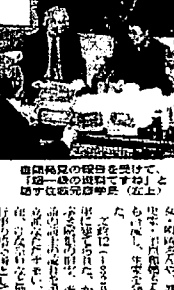
山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



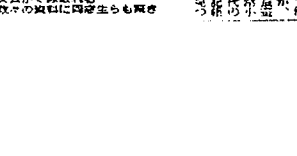
山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



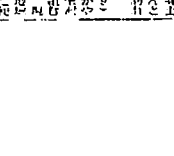
山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。

手紙発見の前に発刊

「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。



山間さんが見つけた「本間イズム」の生誕地を訪れた。左から、山形県山形市で「本間イズム」の生誕地を訪れた。

愛大創立に主導的役割

故本間名譽学長のノート、手紙発見



山形県の実家で見つかった本間名譽学長のノート＝豊橋市の愛知大で

愛知大(本部・豊橋市)創立に主導的な役割を果たした故・本間馨一名譽学長が、旧制高等学校・同中学時代に使っていたとみられる約百年前のノートなどが山形県川西町の実家で見つかった。一部は11月中にも、豊橋校舎内の愛大東亜同文書院大記念センターで展示される。(安田功)

山形の実家で

見つかったのはノート約七十冊や、旧制東京府立第四中学校時代の通信簿、愛大創立前に本間名譽学長が実家に送った手紙など。同記念センターの越知博客員研究員らが10月末に招かれ、屋根裏部

旧制高・中で使用 豊橋校舎で月内にも一部展示

屋の段ボールに入れられていたのを確認した。ノートの表紙には「教育」「物理」「代数」などと書かれ、中は細かい字でびっしりと記述。「動物学実験」にはカニやシヤコ、イカなどの器官を絵で再現し、教員後に専門となった「商法」だけでなく、理系科目の習得にも熱心だった様子が見えがえる。手紙は実家のおいにて、愛大創立に向けた準備について「多忙で疲れた。資金が容易に集まらない」と悩みを打ち明けている。越知研究員は「ノートは本間名譽学長が秀才だったことをつかかわせる貴重な資料。整理してから公開したい」と話す。展示室は火一瞬に開館で入場無料。



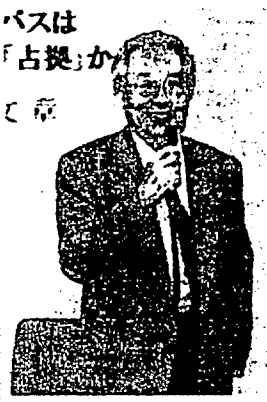
大東亜同文書院

最後の
入学生
北川氏が歴史語る

愛大記念センターで公開講演会

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは28日、愛知大学豊橋校舎で公開講演会を開き、書院大の最後の入学生だった北川文章氏が、書院大が日中戦争後に上海交通大学の校舎を利用したことは、借用なのか、占拠なのかについて語った。

北川氏は、日中戦争で書院大の校舎が焼け



たために、交通大の校舎と説明し、「日本側は舎を使うことになった」苦慮の結果、一時的に

借用することになった。中国側は敵に占拠されたとしている」と解説した。また書院大が日中戦争前後では大きく性格が変わったとし、「戦争前は中国人学生が学んでおり、日中の友好をはぐくむことができた。戦争後は日本人だけになり、難しくなった」と述べた。(竹下貴信)

東愛知新聞 2009年11月29日(日)

上海交通大学史の編纂について

きょう愛大で講演会

愛知大学東亜同文書院大学記念センター公開講演会は、30日午後1時30分から同大学豊橋校舎本館5階会議室で開く。講師は葉敦平・上海交通大学教授、テーマは「上海交通大学史の編纂をめぐって」。入場無料。現在120年史を編纂中で、校史編纂の目的や方針、特色などについて聞く。

東日知新聞 2010年1月30日(土)

第3種郵便物認可

本間イズムは「義仁愛」

愛知大学同窓会 まちはたクラブ 第1回会合

倉橋健二



愛知大学同窓会まちはたクラブ(越知駅代
表)と本間イズムを啓
るについて語る
愛知大学同窓会
代表 越知

愛知大学同窓会まちはたクラブ(越知駅代表)の第1回会合が12月11日、愛知大学車道校舎

13階会議室で開かれた。越知代表が「本間イズムと愛知大学」について説明。「簡単に快に言えば、義と仁と愛を根源とする大学」と、事例を挙げながら説明し、今後の啓蒙活動について討議した。その中で、中学校に対する出前授業は今までのように進め、同窓会各支部の総会などは、「本間イズム」の事例編や資料編をもっと積極的に配布・紹介することが必要で、いつでもどこでも分かり

やすく解説出来るように、教育機器の書画カメラを使った実物投影機や、液晶プロジェクターとラゲネットスクリーン一式が携帯できるキャリアケースを購入し、教育関係機関に寄付し、啓蒙活動を促進することにした。



愛知大学同窓会まちはたクラブの代表 越知(左)と本間イズムを啓るについて語る 越知(右)

そのため、今月17日に新城市教育委員会を訪問し、教育サポートとしてのICT3点セットを寄贈することを満場一致決めた。寄贈先を同市に選んだのは、今年7月2日に千郷中で、同16日には風来中で本格的な出前授業を行っており、また、愛知大学創立の折、「建学の恩人」とも言われる富田実平氏が戦後、南設楽郡新城町字町並131の住人であった(設立申請時の寄付者の住所氏名より)関係から「義礼」の意味も込めた。昼食をくださった。

談会では、自己紹介と喜一先生の想い出話を語り合った。また、陶芸家・古橋尚氏は、本間喜一先生の座右の銘の「日々是新」入りの湯飲みを特製し、参加者全員に配布、来年5月には、中目文化センター(名古屋・栄)で「人命は地球より重い」教育者本間喜一の生涯(仮称)の特別講座を開く予定との報告もあった。(東愛知新聞社通信部長)

11 12月18日(金) 2009年(平成21年) 12月18日(金) 東日新聞

社会

市の会合や催しで使って

新城市教委に書画カメラ一式贈る

愛知大学同窓会が「まちはたクラブ」(越知真代氏)は「市議会」や「イベント」などで活用したい」と話した。

愛知大学同窓会が、今年7月に市内の公立中学校で同大の

植田が大規模な出前授業を行った。両高の途が深まっていくというなかで、寄附された。

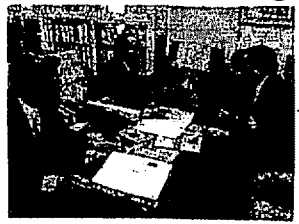
機材の内容は書画カメラ、プロジェクタ、インターネットフリーの3点。小型カメラで撮影した教材を拡大してスクリーンに投影するほか、

同日、越知代氏と同窓会の越谷欣高副会長が市役所を訪れ、和田守功教育長

和田教育長(左)と越知代氏(右)が、新城市役所で



まちはたクラブが書画カメラ一式贈る



中日新聞 2009年(平成21年)12月19日(土曜日)

2009年(平成21年)12月19日(土曜日)

書画カメラ一式を寄附した。愛知大学同窓会「まちはたクラブ」は、日、書画カメラ、プロジェクタ、インターネットフリーの3点の越知代氏(左)と同窓会の越谷欣高副会長(右)が市役所を訪れ、和田守功教育長(左)と越知代氏(右)が、新城市役所で

2009年(平成21年)12月18日(金曜日)

OHCCなど一式寄贈

愛大同窓会 新城市教委へ

まちはたクラブ

愛知大学同窓会「まちはたクラブ」(越知真代氏)は、新城市教委へ書画カメラ、プロジェクタ、インターネットフリーの3点の越知代氏(左)と同窓会の越谷欣高副会長(右)が市役所を訪れ、和田守功教育長(左)と越知代氏(右)が、新城市役所で



和田教育長と越知代氏(左)が、新城市役所で



大学の設立期たどる

約60校の史料山点

日本の各大学が幕末から現代まで、どんな時代を背負って生まれてきたかをたどる全国大学史展「日本の大学―その設立と社会―」が、明治大

学博物館(東京都千代田区)で開かれている。約60の国立、私立大などから創設当時の校舎の写真や設立趣意書、制服など100点が集まった。

主催は、全国大学史資料協賛会(東京)と明治大学史資料センター。協賛会は各大学の歴史を編纂する研究者ら

からなり、調査や公開をめぐり研究会を組んでいた。「大学横断の歴史展はおそらく初めて」と同協会。

展示は国の政策と社会の要請のなかで、大学が、どう歩んできたかを追った。主な構成は、①幕末維新期の「模索の時代」②女子教育や商業、外国語などの学校が設立された「多様化の時代」③大学が多くの私学が大学と認められた「制度化の時代」④敗戦後、新制大学が生まれ、現代に至る「新しい大学の時代」

の各コーナーだ。「大学史のなかの学生たち」を加えた。会場には、大学の設立願書や趣意書、認可書類(明治国学院、拓殖、早稲田、日本女子大)のほか、学生のノート(京都大)、卒業生の写真(お茶の水女子大)、卒業式の答辞草稿(日本大)、学帽や制服(成蹊学園、実践女子大)などが並び、大学紛争時のじらや女子寮の名札も展示された。展示をまとめた京都大学文学部館の西山伸・准教授は「大学のあり方が問われる今、その原点を見つめ直す機会になれば」と話している。

2月14日まで無休。無料。問い合わせは同センター(03・6226・4085)。



大正期の成蹊高等学校の制服

愛大設立の決意を示す

創立者・本間名誉学長の書簡寄贈

長女・殿岡さん

愛知大学の創立者で、第2、4代の学長を務めた、本間喜一(1891〜1987)の生家で発見された、同大設立に向けた強い決意を示す直筆の書簡や勲章等が5日、本間氏の長女・殿岡辰子さんから同大に寄贈された。

(杉浦文夫)

上海の東亜同文書院大学の最後の学長を務め、敗戦で引き揚げてきた本間氏が1946(昭和21)年9月20日、おいの小池信哉氏にあてた書簡。「同文書院大学に代わる大学を設立し、学生教授達を救済致し度く」と、開校に向けた決意や自指す大学像を記している。

殿岡さんは昨年10月、愛大東亜同文書院センター客員研究員・越知野氏と一緒に、山形県川西町の本間氏(旧姓・小池)の生家を訪れ、旧書室で発見した。

「義・仁・愛に満ちた、本間イマの原点を汲み取れる手紙」と越知氏。直筆原本は同センター内の本間氏のコーナーに、カラーコピーは学長応接室や車道校舎の同窓会室へと、いずれも額装して寄贈することになった。

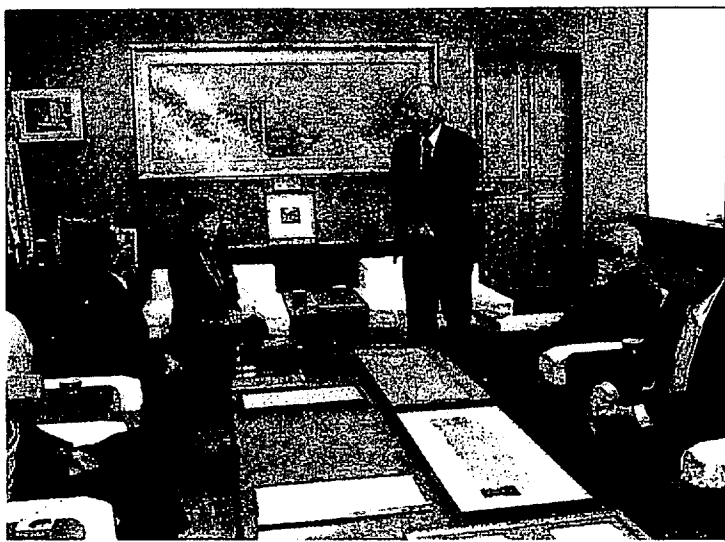
殿岡さんからは、元学長は「設立趣意書に匹敵する書簡。学生や職員への思いなど、熱いものを感じてゾクゾクとした。大学の原点に立ち戻り、振り返る貴重な資料。心から感謝します」とお礼を述べた。

また、本間イマの啓もう活動を行う、まちはたクラブから、代表

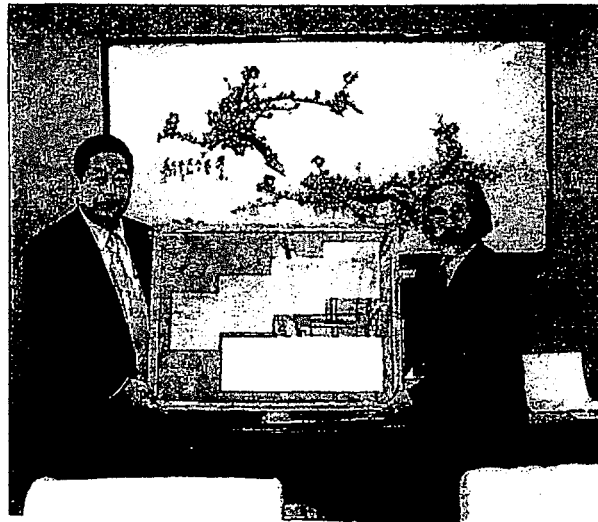
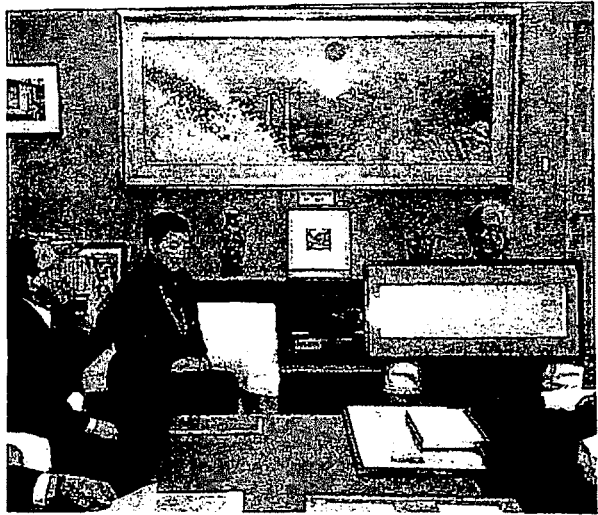
表の越知氏はじめ、愛大同窓会副会長の浅井英行、加藤満穂岡氏、本間セミ生の倉橋健二氏が出席し、殿岡さんや佐藤学長、藤田佳久・同センター長と懇談。



佐藤学長(右)に、本間氏直筆の書簡と勲章を渡す殿岡さん。左は越知氏(愛知大学学長応接室)。



中 二 乗千 尾野



故本間愛大名書学長の長女 創立直前の手紙寄贈

愛知大(本部・豊橋六(昭和二十一年)市の故・本間啓一名山形県川西町の実家に書学長が大学創立直前に、おいにあてた手紙が五日、長女の殿岡慶子さん(七〇)東京都世田谷区から大学に寄贈された。

手紙は創立へ主導的な役割を果たしていた本間名書学長が一九四

殿岡さんは佐藤元彦「父がいかに設立に奔走し手紙を手渡し、走したかを多くの人に知ってほしい」と要望した。大学は来週にも手紙の複製を豊橋校舎内の愛大東亜同文書院大記念センターで展示する。(安田功)



本間名書学長の手紙を複製する豊橋校舎内



書と直筆の殿岡さん(愛知大学)の直筆の手紙を本間名書学長(愛知大学)が複製する

11 2月6日(土) 2010年(平成22年) 第3種郵便物認可 東日新聞

本間学長の書簡など愛大へ 大学設立へ 長女の殿岡さん寄贈

愛知大学創立者・本間啓一名書学長の手紙が5日、愛知大学に寄贈された。贈呈は、愛知大学豊橋校舎本館で行われ、本間名書学長の長女・殿岡慶子さんから佐藤元彦学長に、直筆の書簡、敢二等の勲章、マイクロフィルムなどが手渡された。

直筆の書簡は昨年10月、本間名書学長の生家・山形県東置賜郡川西町(現南陽市)で発見された。昭和21年9月20日付で、甥(おい)の小池信哉氏にあてたものだが、本間名書学長の(愛知)大学設立に向けた強い決意が便箋(せん)4枚につづられている。

同書簡はカラーコピーされて額装し、愛知大学のほか、東亜同文書院大学記念センター、同窓会に贈られた。

(第3種郵便物認可)

2010.2.22

7期 中

三

第11

文化

大学博物館が連携

『万人に関わられた施設を』

学芸員配置の義務化求める

大学の付属博物館が連携して運営ノウハウを共有しようという取り組みが始まった。多くの大学が生涯教育の一環として博物館事業に力を入れているが、人員不足など課題を抱える博物館も多い。連携していきながら、文部科学省に対しては法律の整備を求め、運営の充実を図る方針だ。

大学博物館は全国に三百五十館ほどあり、年々増加している。少子化で大学経営が苦しくなるなか、学生以外の幅広い年齢層を学内に呼び込むことができれば博物館が見直され、開館が相次いでいるためだ。

明治大で昨年十二月、「ユニバ

まで、衆目を集める出来事相次いだ。しかし、その陰にあって目立たない出来事のひとつもある。見過ごされがちな事柄ほど、おごり重たさで気づかされるということがある。それらに目撃するものは、もちろん私たち市民をおいてほかにない。

「そうかと思えば、法制審議会の部会が公断時効制度見直しへの骨子案を出し、そのなかで、改正法施行前に発生した未解決事件にもこれを適用することに含意をもたせた。これは未解決事件に苦しみ犯罪被害者遺族が長年求め続けてきた核心部分であるが、法律を、その施行前にさかのぼって代弁のことであったか、あるいは例外的にさかのぼるべきか、あ

「市民に迫られた末に、大規模なリノベーションに立つたヨタは、これを機に、まだどこかに残っているだろう『ものづくり』の神話を捨てて、了したかな世界企業の顔に変わってゆくのかもしれない。日本人がこのリノベーションから学ぶことは多い。(たがむら・かおる) 作家



大学博物館の連携が課題が報告された。東京都千代田区の明治大で。

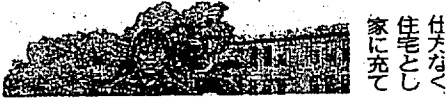
しい大学も多く、事務職員が学芸員を兼ねている例もある。

ミーティングでは「協働の学芸員をどのように受け入れるか」が課題(日本大生物資源科学部博物館)、「ボランティアの協力が大きい」(和洋女子大文化資料館)という意見も聞かれた。

他の博物館にも参加を呼びかけ、八月に予定している一回目の会合で正式に連携組織を決定させる。所蔵資料を研究・公開する体制を整えるため、文科省に、学芸員配置を義務化する法整備などを訴えていくとともに、大学側にも研究費の増額などを求める方針だ。

呼び掛け人の一人で前明治大博物館事務長の伊能泰明・同大中央図書館事務局長は「現場からは深刻な声が寄せられている。大学はどうか閉鎖的と思われがちだが、万人に関わられた博物館の活動を通じて社会貢献を活性化させたい」と話している。(栗原淳)

*「思いつままに」は休載しました。



住宅として家に充て

東亜同文書院大学記念センター公開講演会

上海交通大学史の編纂をめぐって

日時 2010年1月30日(土) 13:30~16:00

会場 愛知大学豊橋校舎 本館5階会議室

豊橋鉄道渥美線「愛知大学前」下車すぐ

講師 葉敦平氏
(上海交通大学教授)



上海交通大学は中国での鉄道技術研究や同技術者を養成する日本でいえば工業専門大学でした。その創立時の名前は「南洋公学」と称し、「南洋大学」となりました。東亜同文書院の設立の直前に開学し、中国の大学史では最も古い大学のひとつで、今日では重点大学になり、文系学部も加わり総合大学へと発展しています。書院がそれに隣り合って立地した時代、戦時中その校舎を借用した時代と書院とのかかわりのある大学です。

この上海交通大学は現在120周年の大学史を編纂中です。今回はその校史編纂室の代表である葉先生をお迎えし、校史編纂の目的や方針、背景、具体的な構成作業などについて、中国における大学史編纂の特色を講演していただきます。なお葉先生はこのほど第16回東亜同文書院記念賞を受賞されています。

※講演は中国語 日本語通訳あり

お問い合わせ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープンリサーチセンター
〒441-8522 豊橋市町畑町1-1 電話 (0532)47-4139 FAX (0532)47-4196
愛知大学豊橋研究支援課 Email: tshlen@ml.atchl-u.ac.jp

入場無料

どなたでも自由に
ご参加下さい

事前申込不要